

2026年3月期 営業のご報告

# SFG REPORT 2026 June

ごあいさつ

取締役社長 CEO

柴田 久



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

国内経済は、賃金と物価が上昇する好循環が定着しつつあるなかで、「成長型経済」への着実な移行を目指す重要な転換期を迎えています。足元では、高市内閣が推進する「成長戦略17分野」への重点投資や「地域未来戦略」のもと、力強い経済成長に期待がかかる一方で、地政学リスクの高まりを起点とした原燃料の価格高騰や供給不足等の問題が顕在化するなど、機会とリスクが交錯する複雑な環境のなかで、我々も持続的な成長に向けた大胆な行動と戦略的な投資が求められています。

こうしたなか、しずおかフィナンシャルグループでは、2026年度より第2次中期経営計画「Xover2.0～ともに、未来へ」をスタートしました。本計画では、ビジョン実現に向けた3つの基本戦略「共創・成長・挑戦」「トランスフォーメーション2.0」「コーポレートコミュニケーション」を軸に、グループ各社がマテリアリティの解決に資する活動を推進し、社会価値創造と企業価値向上の最大化を目指します。

持株会社体制として初めて臨んだ第1次中期経営計画で得られた手応えと課題を念頭に置き、ステークホルダーの皆さまからご期待いただける成長シナリオを描けるよう、積極果敢な挑戦を続けてまいります。

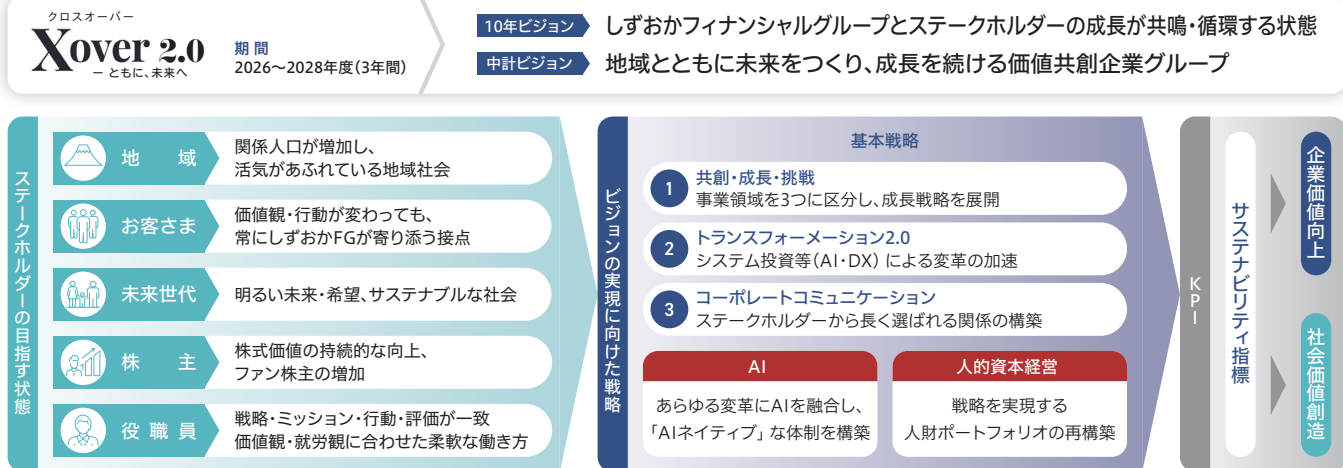
皆さまにおかれましては、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

未来がはじまる場所になる。



しずおかフィナンシャルグループ

## 第2次中期経営計画の概要



		指標	前中期経営計画目標(2027年度)	第2次中期経営計画目標(2028年度)	
企業価値向上	財務目標	収益性	連結経常利益 1,450億円以上	1,700億円以上	
		連結ROE(純資産基準)	8.5%程度	9.5%程度	
	エンゲージメント指標	効率性	連結OHR	50%程度	47%程度
		健全性	連結CET1比率	13%程度	13%程度
		お客さまのグループ取引満足度	前年度比プラス	前年度比プラス	
社会価値創造	社会インパクト指標	グループ役職員のエンゲージメント	4.0以上	4.0以上	
		しずおかFGのGHG排出量(Scope1,2)	カーボンニュートラル達成(2030年度)	カーボンニュートラル達成(2030年度)	
		事業性融資取引先*のGHG排出量	—	各年前年度比で削減	
		静岡県内人口の社会増減率	継続的に増加		
		静岡県内実質総生産	持続的発展		
		静岡県内のGHG排出量削減率	2013年度比▲46%(2030年度)		

※ 事業性融資取引先のうちGHG排出量を計測していることが認められる先を対象とする

## TOPICS

### 名古屋銀行との経営統合に向けて

2026年3月、しずおかフィナンシャルグループと名古屋銀行は、経営統合に関する基本合意を締結し、持株会社体制の新たなステージに向けた具体的な検討を進めています。

今後、統合の実現に向けた準備を着実に進め、両社の強みと経営資源を融合することで、広域での金融サービスの高度化と新たな価値創出を図り、地域社会とともに持続的な成長を目指します。

#### ■ 今後のスケジュール

2027年3月(予定)	本経営統合に関する最終契約および株式交換契約の締結
2027年12月(予定)	臨時株主総会 会社法第796条第2項に基づく簡易株式交換に該当する場合、しずおかフィナンシャルグループにおいては株主総会による承認を受けずに本経営統合を行います
2028年4月1日(予定)	株式交換効力発生日



### 地域とともに成長する「まちづくり」への取り組み

地域の持続的な発展に向け、金融の枠を超えた「まちづくり」や地域活性化に取り組んでいます。

2026年3月には、静岡銀行、SFG不動産投資顧問など地域企業5社が共同出資した特別目的会社を通じて「浜松アクタワー」の信託受益権の準共有持分40%(※)を取得しました。地域の中核施設を将来にわたり維持・発展させることで、にぎわいの創出や都市機能の維持・向上に貢献しています。

また、静岡市のアリーナ整備事業においても、官民連携による新たな交流拠点づくりに参画しています。

※ 2026年9月には、持分60%の追加取得を予定しています。



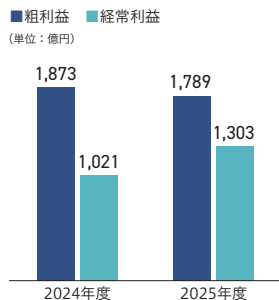
浜松アクタワー



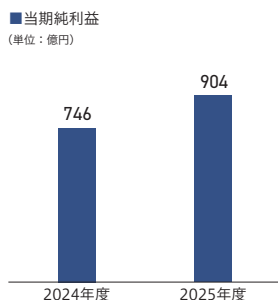
静岡市アリーナ  
(外観イメージ)

# 業績ハイライト (2025年度)

## 粗利益・経常利益(連結)



## 親会社株主に帰属する当期純利益(連結)



## ROE (連結)

純資産基準  
**7.5%**

前年度比+1.2pt

## OHR (連結)

**58.4%**

前年度比+6.5pt

## 貸出金残高(平残) (静岡銀行)

**10兆9,362** 億円

前年度比+4,063億円

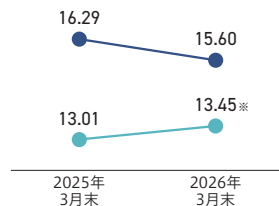
## 預金等残高(平残) (静岡銀行)

**12兆3,118** 億円

前年度比+2,438億円

## 自己資本比率(連結)

● CET1比率  
● CET1比率(バーゼルIII最終化完全適用後)  
(単位: %)



※バーゼルIII最終化完全適用後の資本フロア調整額等を考慮した試算値

## 格付

	SFG	静岡銀行
Moody's	—	A1
S&P Global Ratings	—	A <sup>-</sup>
格付投資情報センター (R&I)	AA <sup>-</sup>	AA <sup>-</sup>

# 株式情報

## 株式情報 (2026年3月31日現在)

株主数	46,954名 (2025年9月30日比 6,943名増)
発行済株式の総数	580,129,069株
保有自己株式数	49,578,515株

## 株主還元状況

2027年度までに「配当性向50%以上」へ累進的に引き上げ、2028年度以降も「配当性向50%以上」の維持を目指します。

2026年度の1株当たり配当金(年間)は、2025年度から18円増配し98円を予定しています。

	中間	期末	年間配当金
2025年度	39円	41円	80円
2026年度	49円(予定)	49円(予定)	98円(予定)

## 株式事務のご案内

株式事務につきましては、以下をご覧ください。

<https://www.shizuoka-fg.co.jp/ir/stock-administration.html>



## コーポレートコミュニケーションの強化

### サッカー指導者・長谷部 誠さんがブランドパートナーに就任

コーポレートコミュニケーションを第2次中期経営計画の基本戦略の一つに掲げ、ブランドプロミス「未来がはじまる場所になる。」を体現する取り組みとして、ステークホルダーのさまざまな挑戦を応援する「未来がはじまるプロジェクト」を推進しています。ブランドパートナー・長谷部 誠さんとともに、挑戦する人や地域を応援する活動を展開し、地域に共感の輪を広げていきます。

<https://www.shizuoka-fg.co.jp/brand>



## グループストラクチャー

銀行・証券・リースなどに加え、新たな事業会社の参画により機能を拡充し、お客様の暮らしやビジネスをグループ一体で総合的に支援しています。

<b>金融業務</b> 静岡銀行 (海外子会社) Shizuoka Liquidity Reserve Ltd. 他	<b>信用保証</b> 静岡信用保証 金融商品取引 静岡ディーエム証券 マネックスグループ コモンス投信	<b>リース</b> 静岡リース 東京ガスリース* 経営コンサルティング 静岡経営 コンサルティング ターンザタイト	<b>IT関連業務</b> 静岡 ITソリューション ティージェイエス マーケティング SFGマーケティング 不動産関連投資助言 SFG不動産投資顧問
<b>グループの生産性向上</b> 静岡総合サービス しずぎんビジネスパートナーズ* しずぎんハートフル	<b>カード</b> 静岡カード 静岡セゾンカード 日専連静岡*	<b>ベンチャー・再生支援</b> 静岡キャピタル	<b>まちづくり支援</b> しずおかまちづくり コンサルティング*

\*赤字で記載している企業は新規事業会社です。